



## 卷頭言

国領, 英雄

---

**(Citation)**

海事資料館研究年報, 22

**(Issue Date)**

1994

**(Resource Type)**

other

**(Version)**

Version of Record

**(URL)**

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81005670>



# 巻 頭 言

海事資料館長 國 領 英 雄

「これからは全国でも数少ない“船の博物館”としての特色を出すために、一層の整備、充実と活用が必要となろう。」(1992年年報巻頭言)という北野前館長の言葉を裏書きするように、93年度に資料館展示室の内装が更新され、ビデオ室の設置、展示解説の充実などがなされ、94年度早々には日本航路図のパネルが導入され、資料館の整備・充実がすすめられました。今年度は、内外二つのイベントに資料館の所蔵物を貸出し、多くの人々に観覧の機会を供しましたが、これは活用の実をあげたものというべきでしょう。その一つは、兵庫県の香住町で催された「但馬の海の文化」をテーマとする但馬・海中公園展(会期：平成6年4月9日～12月25日)で、もう一つは、ドイツのハンブルグで行われたアート・マリティーム'94(会期：平成7年10月22日～10月30日)でした。前者には北前船1隻と絵馬3点を、後者には八幡丸、天昭丸、正直丸をはじめ船絵馬、船大工道具、船筆筒、和船設計図、船名額等、計27点が展示されました。とくにハンブルグの展覧会では、日本の古い海事資料に現地の人々が高い関心を示し、かなりの反響があったということで、わが資料館の所蔵物が立派に国際親善に一役買ってくれたものといえます。

ところが残念なことが起こりました。平成7年1月17日午前5時46分、阪神・淡路地方を襲った兵庫県南部地震が、幾多の諸先輩が多年にわたり精根を傾け、熱意をもって収集されてきた掛け替えのない貴重な資料に大打撃を与えたことです。幸い全壊にはいたらなかったとはいえ、これを修復するには、かなりの時間と費用がかかることは必至です。1日も早く開館にこぎつきたいとは思いますが、いまのところまったく予定が立ちません。みなさまの御理解と御協力をこいねがう次第です。